

中山間地域の地域ぐるみの交流集客拠点づくり(内子市)

(1) 事業概要

中山間地域の地域ぐるみの交流集客拠点づくり。昭和61年に始まった知的農村塾。地域の担い手が参加費500円を出して勉強し、「危機感」をどのように乗り越えるのか、自らの課題として学び、行動を起こすきっかけとなった。

そこから、基本構想の策定、実験施設「内の子市場」の開設、情報センターのオープンを経て、平成9年に株式募集を実施(①)。町民616人を含む、677人が株主となり会社を設立・事業を開始した。順調に事業が成長し、数回の増資を行っている。

また、POSシステムやトレーサビリティシステムを導入し、それらをフル活用して、安心安全・付加価値を生み出している(②)。さらに、レストラン、加工施設(パン、燻製等)、やすらぎ空間デッキの整備など、多角的な事業を展開している(③)。

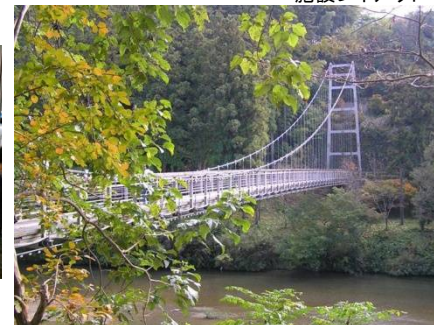
(2) 事業成果・特徴

- ・年間来場者数70万人以上／販売総額7億円
- ・話し合いのできる雰囲気：自主性の醸成
- ・出荷者自身による直接販売、売り場づくり：ニーズの把握
- ・少量多品目をウリに！：発想の逆転

■事業の主な内容

(出典)財団法人地方自治研究機構「地域振興事例調査報告書」平成23年3月

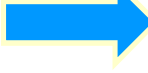
項目	内容
事業名	内子フレッシュパークからり
発注者(人口)	内子市 (17,124人:H24.1月現在)
事業主体	株式会社 内子フレッシュパークからり(第三セクター)、からり直売所出荷者運営協議会、内子町
対象施設・事業内容	①農産物直売所 ②レストラン・農産物加工場 ③グリーンツーリズム



①地域関係者が出資・株主になる



②情報システムの整備・活用



沿革

年	月	内容
昭和61年	1月	知的農村塾開講(以後、毎年実施)
平成4年	10月	フルーツパーク基本構想策定
平成5年	11月	フルーツパーク基本構想集落説明会(延べ50回)
平成6年	7月	農産物直売所実験施設「内の子市場」開設
平成8年	5月	農産物直売所、情報センターオープン(からりネット始動)
平成9年	2月	株式募集開始(169株募集:申込み455株)
同年	4月	(株)内子フレッシュパークからり設立(資本金2,000万円)
同年	6月	レストランオープン
平成10年	3月	農畜産物処理加工施設完成(パン、燻製)
平成11年	12月	(株)内子フレッシュパークからり増資(2,000万円)
平成13年	3月	農畜産物処理加工施設完成(農産加工場)
同年	7月	あぐり亭オープン(農家婦人グループ)
平成15年	3月	情報システム補完整備(からりネット拡充)
平成16年	11月	(株)内子フレッシュパークからり増資(1,800万円)
平成17年	3月	トレーサビリティシステム整備
同年	6月	直売所、パン工房、レストラン模様替え
平成18年	7月	(株)内子フレッシュパークからりが指定管理者となる
平成19年	1月	(株)内子フレッシュパークからり増資(1,200万円)
同年	11月	農林水産物処理加工施設完成(加工工場)
平成20年	3月	都市農村交流促進施設完成(やすらぎ空間デッキ整備)

③産直、レストラン、グリーンツーリズムを展開

(出典)内子フレッシュからりHP、FB